

◎10 月 9 日火曜日

・埼玉県 所沢市議会

* 議会報告会について

3 月議会終了後の 5 月に 2 か所、9 月議会終了後の 11 月に 2 か所の計 4 回開催。

33 人の議員が 8 人ずつ 4 班に分かれて開催。委員会、会派のバランスを考慮して配置。

5 月開催の際は、3 月の予算特別委員会のメンバーが主として配置。

年に一回参加となる。

参加人数は減少傾向、行き詰まり感がある。定年を迎えて、地域を見つめだした 60 歳以上、男性が多い。

報告は定例議会について 30 分、質疑応答 20 分、その後 10 分休憩そして約 50 分意見交換、1 時間 50 分の開催。土曜日の 2 時～4 時、水曜日 19 時～21 時。夜の開催でも若い方や女性が増えることは無い。11 の行政区割で、各区にまちづくりセンターがあり、ホールの設置がある。そこで 11 行政区を回っての開催を行ったが、参加数が増えなかった。結果、市役所とほかの施設での実施となっている。

質疑への準備として担当が想定して用意する。

意見交換を行う際は、以前は前に立っての説明形式で行ってきたが、ワールドカフェ形式へ変更した。市民が発言しやすくなる。参加した市民どうしの言い合いも起きた。

寄せられた意見については、4 つに分けている。①行政に伝える件②様子を見る③聞き置く④委員会等への調査依頼。

* ワールドカフェ「みみ丸カフェ」について

議会報告会を行ってきたが、今期改選後報告会に加えて何か寄ろうと考え、岩手県久慈市議会へ視察行い、早稲田大学との連携が進んでいて、絡めてやろうと考えた。テーブルごと議員が司会ですすめるより、学生にお願いして行うようにした。

行政回覧、以前街宣車での広報も行ったが現在は行っていない。ポケットティッシュ配布。800 人無作為抽出で 20 代から 50 代の方に案内状の配布。今年は 40 代まで。60 代以上は議会報告会へ多数参加があるので送らない。

早稲田大学とパートナーシップ協定を結んでいて、先生、ゼミ生の協力をいただいている。ファシリテーターも早稲田大学の先生。先生とは 2 回打ち合わせを行った。

市内の高校を回り高校生の参加をお願いして、実際参加もあった。

若い方も参加して議会報告会と違った雰囲気の良い開催となった。議員側もスーツといった硬い雰囲気ではなくポロシャツをシャツ作って着用して、名札も愛称で参加。

意見は、結論を出すわけでは結果なく、タックスシールに将来の所沢など記載したものを貼る。

若者の意見を聞きたいとの目的から開催。参加者から率直な意見が出され大変勉強となった。議員がエプロンしてお茶を配るなど会場の雰囲気づくりも考慮。

若者の意見を市政につなげていくことが今後の課題。

委員会の事業として行っている。参加議員は一部。当日は、台風の心配、地域のお祭りなどもあった。高校生は部活動の大会もあった。開催時期が課題となった。

* 議会評価について

平成21年から始まった。これは、事務事業評価を行っている中。事務局の事務事業評価は誰が行っているのかとの意見から始まった。項目は、すべてでなく代表的な項目を抽出して行う。

毎年6月に議会運営委員会です承している。

政策研究審議会を常設し、4名の組織。メンバーは法政大学廣瀬克哉先生、防衛医大の先生、早稲田大学の先生、元副市長。11月に任期満了となり新規での選定中。

* 専門的知見の活用について

以上の政策研究審議会も専門的知見の活用の一つであるが、他に平成19年から6回、専門的知見の活用を行っている。費用は5万円×7回分として35万円の予算。

政策研究審議会は、謝礼2万円として40万円の予算。

議員定数の審議会を議会に設置した。委員は5名。

* 議会施設について

* 所感

ワールドカフェ「みみ丸カフェ」については、若い方も入って意見交換がされていること、大学との連携も含めてこのスタイルは大変参考になった。

専門的知見の活用について、議会改革に関係する先生も入るなどの議会の検証を行っている点は今後の参考になると感じた。

◎10月10日水曜日

・埼玉県 新座市議会

* 新座市市役所旧庁舎は、昭和49年建設。平成23年に発生した東日本大震災後に耐震診断を実施した結果、震度6強から震度7程度の地震で倒壊、または崩壊する危険性が判明。その後、平成24年度から約2年にわたり、庁舎の耐震化に向けた整備手法として、①耐震補強と大規模改修 ②新庁舎の建設 の2案で検討が進められた。

耐震補強、大規模改修工事を行った場合

→・バリアフリーへの対応、狹隘化、環境への配慮の不足等の課題の抜本的な解決は図れない。
・工事期間中も継続して業務を行うには仮庁舎が必要となり、工事終了後も使用できる別棟庁舎を建設する必要性が生じる。
・工事を行っても、鉄筋コンクリート造の建物の寿命が一般的に約 60 年であることから、残りの耐用年数を考慮すると、約 20 年後には新庁舎を建設する必要性が生じる。
・工事費について、新庁舎を建設した場合と大きな差がない。

以上のことから、庁舎の耐震性を確保するとともに、庁舎の課題の抜本的な解決を図り、市民が安心して利用できる庁舎を実現するため、新庁舎建設が決定された。

* 新庁舎

構造：地下 1 階 地上 5 階 構造：基礎免震構造、混合構造（鉄筋コンクリート造・鉄骨造）
延べ床面積：12,249 m² 後期：平成 28 年 1 月 26 日から平成 29 年 10 月 31 日まで 平成 30 年 1 月供用開始 工事費：44 億 8,626 万 6 千円。

・市議会では、市庁舎耐震化整備に関する特別委員会、新庁舎建設検討特別委員会を設置し、議会フロアを中心に新庁舎の設計に向けた意見、要望等を理事者側に行った。

* 新庁舎議会施設について

・市議会に関する機能を 5 階に集約。

・議場

床面積は 360 m²で旧議場と同じ。対面式で新たに質問席を設置。膨張のしやすさに配慮して、傍聴席最下段と議員席 2 段目との高低差を 30 cm と可能な限り小さくした。傍聴定員は一般 62 人、報道関係 8 人。パイプ椅子の対応も可。新たに親子傍聴室を設置。

・全員協議会室、委員会室

全員協議会質の他に委員会室を 3 室設け、4 常任委員会を同時に開催できるようにした。全員協議会室と第 1 委員会室都の壁は可動間仕切りを採用し、会議の規模に応じて必要な面積を確保した。

映像設備は全員協議会室に電動スクリーン及び液晶プロジェクターを設置。

マイク設備は、ワイヤレスのマイク、スピーカー一体型の会議ユニット。

録音のバックアップとして天井に集音マイクの設置。

・議員室

改選時などの会派数の増減に対応できるように、各室の間仕切りはスチールパーテーションとし、取り外し、再取り付けが可能なものとした。名称は会派控室から議員室に変更した。ICT 化の充実を行った。

・議員図書室

市民利用にも配慮し、利用しやすいよう、また、事務局の目が届く範囲のホワイエに面したオープンな空間に図書コーナーとして設置。

・相談室

プライバシーの保護を必要とする相談に対応するため、相談室 2 室設置。カギは事務局で管理。

・議場システム

議場の各席にスピーカー等の会議ユニットを設置。議長席、事務局長席、演壇、質問席の 4

か所には卓上モニターを設置し、手元で出席議員数、発言残時間の確認ができる。プロジェクターの映像を表示する 150 インチの電動昇降スクリーンを設置。一般質問の発言内容を補完するためにプロジェクターによる資料のスクリーンへの映写を認めている。

・傍聴席の難聴者支援設備

補聴器を使用されている方を対象として、傍聴席床下に磁気ループアンテナを埋め込み、専用の受信機と対応する補聴器を使用することで会議音声聞き取りやすくなる設備の設置。

・所感

全員協議会室と第 1 委員会室、議員室のそれぞれの壁は可動式となっており、状況に応じて対応ができる構造は参考となった。ICT 関係はまだ途上段階であるとのことで、他市の事例も参考にしていける事も必要であると思った。会議システムはワイヤレスマイクの採用であったが、ワイヤレスと配線型と研究するところがあると感じた。図書コーナーがオープンになっていたところは珍しく感じた。今後も他の調査も参考にしながら、本市の新庁舎について検討していきたい。